

No	⑤	分類	2-(1)-ア	資料名	一まいのかん板	学年	3・4年	領域	道徳	2-(2)
----	---	----	---------	-----	---------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- 平成 21 年に発生した台風第 9 号災害における人々の姿を通して、助け合い支え合うことの大切さに気づき、自他を大切にしようとする意欲や態度を身につける。

2 趣旨

- 県内で発生した自然災害を通して、命の尊さや共に生きることの大切さを身近に感じとらせる。
- 阪神・淡路大震災から受け継がれる思いやりの心や助け合いの大切さに気づかせるとともに、日ごろから、身近に困っている人がいたら親切にできる心を育てたい。

3 配慮事項

- 実際に水害によって命が失われた地域や関係者にとっては何年たってもデリケートな題材であり、指導や扱いには十分な配慮が必要である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 水害時の「わたし」の気持ちを考える。 「わたし」は、なぜねむることができなかったのでしょうか。 ・ 父が大丈夫か心配だったから。 ・ 水が家に入ってきて怖かったから。 ・ 死んでしまうかもしれないと思ったから。 「わたし」は、なぜなみだが止まらなくなったのでしょうか。 ・ 心配していろんなところから手伝いに来てくれたから。 ・ みんなの力になりたいという温かい心にふれたから。	・ 地図等で佐用町の位置を確認し、県内で発生した災害であることを捉えさせる。 ・ 近所のお年寄りを気遣って飛び出した父の安否や自然の大きな力による被害の状況から、わたしの不安な気持ちや絶望感に気づかせる。
2 父の言葉をもとに、日常生活を通して、今の自分にできることを考える。 今の自分にできることを考えましょう。 ・ 困っている人がいたら声をかける。 ・ 災害があったら募金をする。 ・ 地域の人に元気にあいさつをする。	・ 支えてくれる人々の思いにふれ、感謝の気持ちを感じ取り、困難を乗り越える大きな力になるのが人と人とのつながり（絆）であることに気づかせる。 ・ 人と人とのつながりが困難を乗り越える大きな力になることから、学校や家庭、地域等で日ごろから自分にできることを考えさせる。

5 参考

○ 資料の背景について

佐用町南部の久崎地区は、千種川と佐用川の合流地点であり、以前から水害の多い地域であった。そのため、過去の度重なる水害経験から、日ごろから絶えず川の様子を観察し、常に声をかけ合い協力する「自助共助」の精神のもと、2.7 m まで水位が上がった平成 21 年の大水害においても、一人の犠牲者も出していない。また、佐用町では、普段から水害の多い南部地域を北部地域が支援する地域間連携を図っており、水害時には、泥上げや炊き出し等の支援活動が盛んに行われた。

○ 平成 21 年台風第 9 号災害について

・ 災害の概要

平成 21 (2009) 年 8 月 8 日、日本の南で発生した熱帯低気圧は北上しながら 9 日 15 時に台風第 9 号となり、10 日に紀伊半島の南、11 日には東海と関東の南を通して、日本海の東海上へ進んだ。この熱帯低気圧及び台風周辺の非常に湿った空気の影響で、8 日から 11 日にかけて九州地方から東北地方の広い範囲で大雨となった。兵庫県では大気の状態がたいへん不安定になり、佐用町では 1 時間に 89mm、24 時間に 326.5mm を観測し、佐用町の観測史上最大を記録する豪雨となった。

・ ボランティアの状況

8 月 10 日から 31 日までのボランティア活動者数は、団体受付 10,848 人、個人受付 5,107 人の合計 15,955 人であった。また、地元の県立佐用高等学校の生徒をはじめ、県内各地からたくさんの高校生も復旧ボランティアに奔走した。

「地域防災データ総覧」(平成 23 (2011) 年 2 月 消防防災博物館)

<http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi>

神戸新聞 平成 21 (2009) 年 8 月 26 日 (水)

神戸新聞 2009年08月26日 水曜日 面名 朝三社 13 27ページ



山出しの家からパワリレーで土砂を運び出す
子高の生徒ら 20日、兵庫県佐用町久崎(撮影
・高田裕司)

豪雨禍の佐用町、宍粟市

兵庫県西、北部の豪雨で被害が集中した佐用町や宍粟市に、多くの県立高校生がボランティアとして入っている。県教委によると、23日現在、少なくとも17校、延べ約1400人に上る。夏休み中のため、部活動単位の参加が目立つが、学校ぐるみで参加者を募集したところもある。(1面参照)

復旧に高校生パワー続々
17校1400人が奔走

を購入する際の助成を通
知した。県教委によら
同日から1日当たり3
6校のペースで高校生が
ボランティアに参加する
ようになった。

地元の佐用高校などは
連日活動しているが、神
戸北高校(神戸市)や兵
庫高校(同)など遠方か
らも出向いている。また
教職員もこれまでに延べ
約300人が活動した。

生徒7人の自宅が床上
浸水した龍野高校(たつ
の市)では、参加者を募
ったところ、予想を上回
る生徒14人と教職員
16人が希望。急ぎ、大
小のバス4台で被災地に
送り出した。同校は「被
災地での活動を通し、生
徒たちが今回の水害をか
なり深刻にとらえている
様子がうかがえる」とし
ている。

(佐用真一郎)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

○ 県内に被害をもたらした主な水害等

- ・ 平成 16 年台風第 21 号災害 (平成 16 年 9 月 26 ~ 30 日)
- ・ 平成 16 年台風第 23 号災害 (平成 16 年 10 月 19 ~ 21 日)
- ・ 平成 23 年台風第 12 号災害 (平成 23 年 9 月 2 ~ 4 日)
- ・ 平成 23 年台風第 15 号災害 (平成 23 年 9 月 19 ~ 22 日)

(地域の風水害対策情報 [CGハザードマップ]「過去の洪水記録」兵庫県県土整備部技術企画課

<http://gakusyu.hazardmap.pref.hyogo.jp/bousai/kouzui/history/>)

○ 参考資料

- ・ 「平成 21 年 8 月 9 日 (日) 豪雨災害の状況と本校の取組」(平成 22 年 3 月 県立佐用高等学校)
- ・ 「台風第 9 号災害検証報告書」(平成 22 年 7 月 佐用町台風第 9 号災害被害検証委員会)
- ・ 「平成 21 年 8 月大水害を忘れないために」(平成 22 年 8 月 佐用町民生委員児童委員協議会)
- ・ 「ぼくたちの夏」(平成 22 年 12 月 佐用町立佐用小学校 道徳教育研究発表会資料)
- ・ 「台風第 9 号災害の被害状況について」(平成 23 年 12 月 佐用町)

○ 掲載写真

教育資料 P. 8 防災システム研究所

教育資料 P. 9 赤穂民報社